

原田利一：細辛の剖見

Toshikazu Harada: Pharmacognostic Studies of Japanese "Wild Ginger."

文献によると、市販の細辛は *Asiasarum Sieboldi* F. Maekawa ウスバサイシン及 *Heterotropa nipponica* F. Maekawa カンアオイを原植物とする発汗、解熱剤であるが、筆者が諸所に採集した結果、市販細辛の原植物には上記2種の外に尙数種あることがわかつた。即ち宮崎県祖母山麓には *Asiasarum dimidiatum* F. Maekawa クロフネサイシンが多量に野生してをり、別府市にて販売され、又同県内に自生する *Heterotropa hexaloba var. perfecta* F. Maekawa キンチャクアオイ及 *H. subglobosa* F. Maekawa マルミカンアオイは人吉市に集貨され、大阪市場に送られ、又静岡県御殿場附近では *H. Blumei* F. Maekawa ランヨウアオイを東京市場に出荷していることがわかつた。

筆者は以上6種の市販品について内部構造上の区別点を検討してみるとともに、現在これらの市販品を採集している地方に野生している近縁種についても同時に研究した。

結果を検索表で示すと次のとおり。

A 根細き (0.1 cm 以下) のもの

1 {	根の油細胞極めて少數	ヲナガサイシン
	根の油細胞は多數	2
2 {	根に纖維を認めず	フタバアオイ
	根の髓及射出髓中に纖維散在	3
3 {	根は第1期維管束を具う	ウスバサイシン
	根に第2期維管束発達す	クロフネサイシン

B 根中等大 (0.1~0.2 cm) のもの

1 {	根の油細胞極めて少數	カギガタアオイ
	根の油細胞は多數	2
2 {	根茎に纖維を認めず	ランヨウアオイ
	根茎の髓に纖維散在	3
3 {	根の髓及射出髓中に纖維散在	カンアオイ
	根に纖維を認めず	コシノカンアオイ

C 根太さ (0.2 cm 以上) のもの

1 {	根の油細胞極めて少數	ホウライアオイ
	根の油細胞は多數	2
2 {	根に第2期維管束発達す	3
	根に概ね第1期維管束を具う	5
3 {	根茎及根の油細胞は 50 個内外	タイリンアオイ
	根茎及根の油細胞は 20 個以下	4
4 {	根茎の髓に纖維を認めず	オオカンアオイ
	根茎の髓に纖維多し	キンチャクアオイ
5 {	根茎の篩管部外側に纖維散在	ヤマベカンアオイ
	根茎の篩管部に纖維を認めず	ヤクシマアオイ